

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和 8年 3月16日 環境まちづくり委員会（未定稿）

○桜井委員長 次の陳情に移ります。二番町地区のまちづくり関連についてです。本件に関する陳情は、新たに当委員会へ送付された陳情、送付8-5、二番町計画の基本計画提示前に再度話し合いの場を求める陳情及び継続中の送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36の合計12件です。新たに送付された陳情書の朗読は省略し、関連するため一括で審査することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、日程2、報告事項の（2）番、二番町地区のまちづくりについてと併せて執行機関からの説明を求めます。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 先ほど委員長から言われたとおり、新たに送付された陳情と継続審査となっている陳情について、報告事項（2）二番町地区のまちづくりについての報告内容である番町次世代シンポジウムの取組に関連しますので、併せて報告させていただきます。

区はこれまで、附帯決議を踏まえまして、地区の融和に向けてこれまで3回のシンポジウム等に取り組んでおりまして、直近で実施した1月25日の第3回について、2月9日の当委員会にて配付資料とともに結果の速報をご報告させていただいたところでございますけど、本日は議事概要、アンケートの整理等ができましたので、これら資料とともに概要のご報告をさせていただきます。

それでは、資料ファイル番号07環ま、02-1をご覧ください。議事概要でございます。1月25日に翹町体育館にて15時から約2時間実施し、86名の申込みで、当日欠席者等がございましたので、68名の参加を頂いたところでございます。資料に記載のとおり、ファシリテーターは前回のシンポジウムと同様に東大の加藤教授、ファシリテーター補佐として東大院生の内藤様、コメンテーター（専門家）として、東大の村山先生にも参加して実施したところでございます。

プログラムのほうは、記載のとおり、前回のシンポジウムの振り返りを行った上で、大きく2点ございまして、一つは模型を用いた未来の空間をイメージするということと、あと2点目として、エリアマネジメントの基礎知識の共有という、二つのプログラムを行いました。

続きまして、議事要旨のほうでございます。シンポジウムの議事の趣旨、あるいはプログラムの概要を説明した上で、前回のシンポジウムを振り返り、それらを踏まえて区から日本テレビに発出した要望書の共有を行いました。その上で、「未来の空間をイメージする」と題して区から二番町地区の地区計画の概要を説明した上で、模型を用いて地区計画の壁面線の太枠や、あるいは地区施設を落とし込んだ模型を囲んで、いろいろな意見交換を行ったところでございます。周辺模型もございまして、こちらは市ヶ谷駅前辺りから翹町大通り辺りも含めたものをご用意して、意見交換したところでございます。当日の様子は議事要旨の2ページ目に写真として掲載していますので、参考にご覧ください。

その際に、主な質疑としましては、壁面線の制限がどのようにかかっているかといったことや、あるいは建築面積・容積率がどのようにになっているかの関係性、あるいは広場の向き、日当たり、ピロティ空間も区有される地区施設であることなどを確認した上、あとは交通広場や地下駐車場への動線の確認も含めた、どのようにになっているかといったこと

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和 8年 3月16日 環境まちづくり委員会（未定稿）

や、あるいは周辺も含めた模型もございましたので、建物の高さの制限の確認などがございました。そういったことも含めまして、模型を囲んだ後、もう一つのプログラムとして、エリアマネジメントの基礎知識という共有を行ったところでございます。

区としては、12月に策定したエリアマネジメントのすすめというものを使用しながら、エリマネ活動の目的等をおさらいした上で、ほかの住宅地のエリアマネジメントの事例を、発足経緯や活動内容、あるいは担い手、財源などの項目について紹介させていただきながら、エリアマネジメントというものの基礎的な事項を共有したところでございます。コメントからは、開発前から助走期間として検討していく必要性や、あるいは番町という地域特性に合った内容を取り入れていくことの必要性ということをコメントいただいたところでございます。

最後に、区から、今回は日本テレビからの基本計画の説明をする場としてシンポジウムを開催していきたいということを説明し、終えたところでございます。

議事要旨については以上です。

続きまして、当日の参加者アンケートの分析概要でございます。資料はファイル番号08、環ま02-2をご覧ください。参加者の年齢層については、60代以上の方が約半数を占めるところでございますが、今回は一方で10代、20代の方も少なからずご参加いただいたとともに、40代までも含めれば16名の方にご参加いただいたところでございます。

続きまして、周知方法、3ページ目のQ2をご覧ください。本シンポジウムを知ったきっかけをお聞かせくださいという問いに対して、広報紙、あるいは掲示板、ホームページをきっかけとした方が多く、そのほかはポストにチラシが入っていたなどがございました。知人の方のお知らせということかもしれません。一方で、当委員会でも分かりにくいというご指摘を頂いていますが、麴町区民館で知ったという方もいらっしゃるなかったという結果となっておりますので、引き続き周知方法についてはいろいろ検討していきたいと考えてございます。

続きまして、5ページ目、Q5に今回のシンポジウムの満足度の回答を記載してございます。「とても良かった」「まあまあ良かった」という方を含めると、75%弱ということで満足度が出ております。下の自由意見の概要にありますように、模型の活用やファシリテーターや専門家による進行が理解しやすかったということが満足度の高さにつながっているというふうに考えてございますが、一方で、満足いただけなかった方として、同じ参加者の発言が長かった。や、あるいは日テレ事業者からの回答が今回はなかった。あるいは心配事の解消がなされなかったことへの懸念といった声もございまして、あまりよくなかったといったようなお声にもつながったかと思っております。

なお、今回については、日テレさんについては、主なプログラムの内容から、ただいま基本計画も検討中でございますので、現時点、具体的な説明が難しい状況を踏まえて、オブザーバー参加としております。

6ページ目をご覧ください。エリアマネジメントの基本的な事項について理解できましたかといったようなご質問でございます。これは、ある程度イメージできたという方まで含めると、8割強でございました。自由意見にも記述してございますけど、歩行者目線の見え方のイメージができたというお声や、あるいは一方で環境影響も把握したかったと

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和8年3月16日環境まちづくり委員会（未定稿）

いったようなご意見もございました。これまでも当委員会でご説明させていただいておりますけど、環境影響評価については、具体的な計画と併せて結果説明をさせてもらうこととしてございます。

続きまして、そうですね、エリマネの共有に関してのご質問でございます。申し訳ございません。続きまして、すみません、8ページ目のQ7の質問、エリマネへの参加意欲についての質問でございます。参加したいといったことや、あるいは興味のある内容について参加したいという回答がかなりを占めたというような状況で、一方で、現時点では参加したいと思わないといったような意見も頂いてございます。自由意見にも記述しており、住民や企業が協力して地域をよくするために関わりたいといったようなご意見もいらっしゃいますが、一方で、なかなかエリアマネジメントの必要性というところに疑問の声も見られました。参加意欲の高い方、あるいは自ら行動しながら地域をよくしていきたい方ということを中心にしながら、活動の具体の検討をしながら、併せて地域に活動の理解を得ていくということが必要なのかなと思ってございます。

続きまして、Q8ですね。意見交換の場の必要性についての質問です。多様なメンバーが話し合う場が必要といった意見が65%程度あるものの、一方で、シンポジウムの満足度にも関連する部分もあろうと思いますが、意見の偏りとかを防ぐとか、あるいは場の設定、運営の難しさを指摘する声もありました。

以上がアンケート結果の概要でございます。

続きまして、ファイル番号09、環ま02-3、こちらが先ほどのアンケート結果の概要の基となっているもので、アンケートの自由記述の原文でございます。ご説明は今回省略させていただきます。

以上、議事概要、アンケート結果の概要、アンケート自由記述の3点を、シンポジウムの結果概要として区のホームページに掲載しております。

第3回シンポジウムの概要の説明は以上でございます。

続きまして、第3回も含めまして、これまでシンポジウムを通じて、地区計画の内容、あるいはそれの中にも記載がございますエリアマネジメント活動の基礎的なことについて、模型も用いながら地域の理解を促進してきたところでございます。また一方、区では、これまでのシンポジウムを通じて頂いた意見を、12月に地域の意見を踏まえた要望書として日本テレビに通知したところでございます。ただいま要望事項を踏まえて日本テレビにて基本計画を検討中でございます。区としては、心配事への対応など、具体的な計画を示しながら説明していかないと、なかなか現状、対応が難しいと考えており、次回シンポジウムについては計画提示に合わせて開催したいと考えております。できるだけ早期の対応について、区から日テレに伝えているところでございます。

以上でございます。

○桜井委員長 はい。説明を頂きました。それでは、委員の皆さんからご質疑を頂きます。

○岩田委員 新たに陳情が出されましたけども、これ、一個一個言ってもいいんですけども、これに対して区はどのように考えていますでしょうか。例えば、まずですよ、細かいところと言うと、第1回目は、二番町地区に特定したものだ。番町住民の一部が参加を制限された一方、番町住民以外の方も入っていた。附帯決議に基づくものとは説明されなかった。ほかにも――あ、全部言ったほうがいいですか。全部言いますか。じゃあ、全

部言いましょう。第2回も不安や様々な懸念を解消する目的で開催され、番町住民に限定されたけども、司会の方から、ようやく話合いの緒に就いたと。このような会がなかったことが地区の二分の原因だと。ということは、これがもう第1回と考えるのがいいんじゃないかなというような発言さえあったということですよ。

次も、住民から出た懸念について、住民以外からの一般論から引いたコメントが一方向で出ただけで終わった項目が多々あるというふうにも言っています。番町の実態や住民の実感に基づいた意見交換は十分に行われませんでしたというふうに言われているんですね。この点についてもどういうふうに思っているのか。

そして、僕も思うんですよ。この心配事への見解のところ、解消したかどうかとって色分けされていたじゃないですか。それで、専門家の方が、ああこれは解消されましたよね、されましたよねと、どんどん緑色の「解消された」のほうになっていましたけども、本当にこれ、解消されたのかなというと、それは第3回のところで、第3回のところ、うーんと、いや、違う。アンケートのところで、第2回終了後のアンケートでは、心配事が解消されなかった。あまり解消されなかった。という割合が4割近くあったということは、解消されていないんじゃないですかね。にもかからず、どんどんどんどん先に行っちゃうというのはどうなんでしょうね。お答えをお願いします。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 今回新たに頂いている陳情に関して、我々もこれまでご報告させていただいているとおり、シンポジウムについては、第1回については参加者を限定してやったといったところも、いろいろやり方として、2回目以降は広く参加を募ってという形で、いろいろやり方を変えて実施しているといったところでございます。併せてプログラムのほうも、第1回は番町のエリアの将来像を考えるとといったところで実施しました。2回目以降、また違った形で、例えば、心配ごとを解消するといったこととか、あるいは地区計画をもっと理解するとか、そういった形でプログラムの内容を変更しながら、皆様にいろいろ情報共有とかをしながら、また意見を吸い上げるということも取り組んできたというところでございます。で、今まで第3回を開いて実施してきたところでございます。

一方で、先ほどありました心配事の解消にまだつながっていないんじゃないかといったところで、第3回にも、第2回の振り返りとして、心配事の解消の色分け、緑とか黄色、あるいは赤という形で色分けをさせていただいたところをおさらいで共有したところでございますけど、一方で黄色の部分はまだ、かなりまだあって、例えば風環境だとか、あるいは街並みの部分とか、資料を見てもらえば分かりますけど、そういった部分は、今現状、計画がない中でいろいろ議論しても、なかなか具体的な対応策というものがイメージが多分湧かないであろうと思ってございますので、具体的な計画提示と併せて、そういった黄色の部分についてどういった対応をしたかといったところを説明いただきながら対応していくというふうに考えてございます。

○岩田委員 全然そこじゃないんです。まず、第2回以降はちゃんとやっていますという話じゃなくて、第2回の際に、専門家の方から、やっとちゃんとまともな場に就いたなと言っているということは、それが第1回目なんじゃないんですかというふうに僕は言いましたよ、まず。第2回と言いながらも、これが第1回なんじゃないんですかと言いました。でも、それも数えて1、2、3回やりましたというのはおかしくないですかという質

問です。1回目。一つ目は。

そして、次の心配事の解消のところ、黄色い部分はかなりあると。いや、そこじゃないんですよ。もう緑色で解決しましたねとって、そこが解決されたことになっちゃっているということを心配しています。本当に解決したのかというと、いや、解決していないんじゃないのという方がたくさんいる。だから、おかしいんじゃないんですかということを行っています。黄色の部分のことじゃないです。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 第2回目を第1回というふうにカウントするかどうかというところは、それぞれ考え方かと思えますけど、やり方を変えて広く募ったのは第2回からですということで、カウントの仕方というのは、我々、次世代シンポジウムというのは第3回まで、それぞれ1回、2回、3回と重ねておりますので、そういった形で考えてございます。

心配事の解消についての緑の部分がどうかといったところで、解消されていないんじゃないかといったところでございますけど、多分いろいろ緑でコメントした部分について、いろいろ、区や事業者だけでなく専門家の方にも意見を頂きながら分類したところでございますので、一方で解決していないという方のご意見というの、今回もアンケートの自由意見で、あるというのは承知してはございますけど、それが多いかどうか、先ほど多いとおっしゃられましたけど、そこが多いかどうかはちょっと分かりませんが、第4回も含めて、全体のいろいろ計画を見ながら、そういったご理解を進めていくものかなというふうに考えてございます。

○岩田委員 専門家の方の意見も大事なんですけども、一番大事なのは、そこに住んでいらして、空気感で、そのまちのことを分かっている方の意見だと思うんですよ、まずは専門家の方ではなく。そして、解消されたかどうかは分からないと。分からないんだったら、なおのことどんどん先に進んじゃ駄目ですよ。そこは丁寧にやらないと。都計審のところの決議文でも書いてあったじゃないですか、丁寧にというふうに。そういうところをちゃんと守られていないんじゃないのという話です。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 区としては、しっかりアンケートも踏まえながら、しっかり丁寧に対応しております、現状、3回まで、このように心配事の整理までやって、あるいは、先ほども説明させていただきましたけど、12月にそういった意見を踏まえて、区から日テレさんに、今後の基本計画に当たってこういう要望事項を基本計画に反映してくださいといったような、伝えておりますので、そのような形でしっかりと区として丁寧に対応しているところでございます。

○岩田委員 まずはそういうところなんです。3回というふうにやっぱり言うじゃないですか。でも、専門家の方でさえも、いや、2回目でやっとちゃんとした、何、ちょっと待ってください。ちゃんとした場に就けたなと言っているのに、でも、区は、3回です、3回ですと、数をわざわざ言うじゃないですか。3回目ですよ、3回目ですよと。でも専門家の方と言っていることが違いますよね、まずはね。

で、何、何だ、心配事の解消のところ、どんどん先に行って、次は基本計画の説明ですよ。基本計画に進んだら、それが反映されるかどうか分からない。前回の質問でも反映、基本計画が出て、意見が反映されるものと反映されないものがあるというようなお答えだったと思います。じゃあ、それこそ、逆に言うと、反映されるかどうか分からないん

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和 8年 3月16日 環境まちづくり委員会（未定稿）

だったら、先にいろいろ区民の方の話を聞いて、それをその後に基本計画を出さなかったら、先に基本計画を出してどんどん先に進めたら、ああ何だ、あのときに言っていただければ基本計画のほうで何とか反映できたのにということになったら、それこそもう取り返しつかないことになりますよ。住民は住んでいるんですから。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 地域のご意見については、これまでも都市計画の手続を通じて頂いた意見、あるいはシンポジウムにご参加いただいたときのご意見、あるいはシンポジウムに参加いただけていない方も、あらかじめ意見等を募って出していただいたところがございますので、そういったところを踏まえて要望書を出しておりますので、それを踏まえて日本テレビさんに基本計画を検討いただいていると。様々意見を収集する機会がございましたので、そういった対応を区としてやっているところでございます。

○桜井委員長 答えているところがありますので、かぶらないように質問していただけますか。

○岩田委員 ほかにもですよ、ビル風の問題も第3回ときには回答がなかった。そしてそのときにも日本テレビに答えさせなかった。それで果たしてちゃんと答えが、皆さん、心配事が解消できるのかなと。肝腎の日本テレビさんに答えさせないで、それで、ビル風一つとっても解決していないわけですよ。で、シミュレーションでは、日本テレビの土地ではない、日本テレビの反対側のところは風が強くなると言っているも、そのところに植栽をできるようなスペースはないんですよ。そういうのってどうやって解決するつもりですか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 先ほど答弁でも説明の際に、先ほどの説明とちょっと重複しますが、ビル風については、具体的に基本計画を説明する際に、風環境についてどうなるかというところを日本テレビさんから回答いただくという形で考えてございます。

○岩田委員 ビル風は、今、例で出しましたけども、心配事の何だ、解消云々のところで、例えばですよ、番町の庭や森の使い方が非常にいいみたいなようなことを言っていますけども、何だ、たき火のこととか、あとは騒音のこととか、そういうので住民の方から意見が出ているじゃないですか。それで何、何だ、煙があまり出ないように燃やしますと。いや、そんなことができるのかなという話で。それよりも具合が悪くなっている人がいるんですよ。なのに、使い方が非常にいいと。それはどういうことなのかなと。全く見解が違うんですよ、住民の方と。だからそれを、そういうところをどういうふうに考えているんですかということなんですよ。

で、用途地域は今住宅地で変わらないと言っているながら、一方で、高いものを建てたいときには、いや、住宅地でありながら商業地でありますと、そういうふうに都合のいいところで商業地を出してきたり住宅地を出したりするんですよ。そういうのもちょっとダブルスタンダードというか、ご都合主義なんじゃないですかねと思うんですよ。

○加島まちづくり担当部長 岩田委員が、今日これは陳情審査ということなので、この陳情の中の何を言われたいのかというのがちょっと私はよく分かっていなくて、番町シンポジウムの中のいろいろあった中での捉え方というのは、それぞれあるんだろうなと。まだ解消していないという部分も、あの緑の部分も、言われた部分もあるんだと思いますよ。

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和 8年 3月16日 環境まちづくり委員会（未定稿）

今回のこの陳情に関しては、この基本計画策定前に、話合いの場ということで、基本計画を出さない今の状況で話合いの場といっても、また資料が今と同じような状況なので、同じようなことが言われるのではないかと。

我々は今まで整理してきた中で、前回ですか、のシンポジウムの中でも、いろいろと地域の方々からのご意見、そういったものを踏まえて、12月17日に区長名で日テレさんのほうに要望を出しています。今言われた例えば住環境の悪化だとかということに関しては、この別紙の6番のところに、交流広場、緑地広場については多数の方が利用することに伴う住環境の悪化等に対する地域の不安に配慮しつつ、地域から要望のあった子どもの遊び場や災害時の活用などを想定した空間設計をお願いしますということで、まさにこういったところを日テレさんが基本計画を説明する段階でいろいろとまたご説明もあり、それに対しての、多分、住民の方からの疑義が、質疑があると思いますので、そういったやり取りは必要だと私は思っております。

ただ、この陳情による、その基本計画の前というのは、もうこういった今説明した検討についてお願いしているの、そういったものを出していかないと、次のステップに私は進まないだろうなというふうに思っております。

○桜井委員長 関連ですか。

○小林委員 関連。

○桜井委員長 関連ですね。小林委員。

○小林委員 今のご答弁はずっと前からしている答弁と変わっていないんだけど、まさに今まで、先ほど何回やったというのがありましたけれども、1回やってうまくいかないから2回目をやったり、2回目をやってうまくいったから3回目をやりながらとかいって、これ、何回も続けるのよ。だから、それが1回だろうが2回だろうがあんまり関係なくて、4回、5回やればいい話で、それで議論が深まっていくと。

そのとき心配事項があるんですよ。それは、前に戻っていくと、日テレが出てこない、出てくるの話じゃなくて、この二番町計画の中で計画ステップというのを示しているじゃないですか。これは区がやる仕事じゃないですか。日テレがやりながら、区はそれを住民とうまく日テレが対応してくれる、対応してもらえること。でも、基本的に日テレも対応できないものはできないんですよ。それも分からないのね、今、住民サイドは。だからこういう陳情が出てきちゃうんですよ、もう一回。基本計画とはどんなものかというのを区民がよく知っているかといったら知らないのよ。今僕らは話しているから、そうだね、この辺まで行ったら日テレに計画を出してもらって、それを我々は聞いて、それを直していかうよとか、この辺は修正してもらおうかという、これは作業なのね、これからというのは。そこを理解しないと、それは、計画を出しては駄目よ駄目よだったら進まなくなっちゃうんで、そこは理解、住民の人もしてもらわなくちゃいけない。

これ、出すのが決定じゃありません。ここで言っている一番コアになっているのは、前からずっと言っているのは附帯決議なの。ここの陳情の中にも出てくるけど、この計画の、それで、附帯決議については、千代田区としても区長名で出しているのよ、日テレに。それを守らないと、今度、日テレが行けないんで、そこのところは区もある意味真剣にやっているの。何かごまかしてとか、何とか進めようなんて思っていないの。一生懸命やっている。（「ある意味では」と呼ぶ者あり）ちゃんとやっている。ある意味じゃない。本当

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和 8年 3月16日 環境まちづくり委員会（未定稿）

の意味でちゃんとやっている。失礼しました。本当の意味でちゃんとやっているのは僕も分かります。それで、住民の方にも分かってもらわなくちゃいけないところがあるんです。ただ、さっき言ったように、この図であるように、基本計画を出してしまったら、これは決定ですよと、もう動きませんよと言われると、住民のほうは不安だから、その前にやれと言っているんですよ。その前にもうちょっと話してくれと。そこの理解を得ないと、これが、基本設計が出て決まったら、それに、1ミリも直しませんよと。

○桜井委員長 基本計画がね。

○小林委員 基本計画。失礼しました。基本計画が出てきたら、基本設計を直さないようにして、基本計画が出てきたら、もうこれ、もうほかはできませんと言うのか、そうじゃなくて、区も、基本計画は具体的に今見えていないんで、それを検討するためのものなんで、この基本計画は意味がちょっと、もうちょっと深いんですということを説明していると思うんだけど、そこのところが理解されていない、住民に。だから、出てくる前にやってくれ、やってくれということになっちゃうんで。

そこで、コアになっているところは先ほどの部分で言われているんだけど、附帯決議も言っているんだけど、要は、陳情でも言われているけれども、あれですよ。先ほどの交通量、風量、交通機関とか緊急車両の影響を試算して、上限の中で適正な容積率の割り出しとかを言えば、高さ80メートルは所与ではない。容積率700%を認めたことではないという具体的な指摘もされているけど、その辺もどうなのかというのが分かる形で、基本計画の中で出てきたときにお話し合いができるかどうか。そこにかかっていると思うんで。それじゃないと、基本計画を出すな、出す前にやれということになっちゃうと、もうさっきからの議論で行ったり来たりで、もう進まないですよ。進めたいんだったら、その部分を、ここのじゃあ住民の意見は聞かないというわけにはいかないんで。聞くんですよ。聞いて、できるものとできないものがあるというところで分けていかないといけないと思うんで、その辺をしっかり整理してもらいたいんですね。じゃないと、また陳情が出てきます、同じように。基本計画というものを理解していただかないと。

その辺の考えを、これ、区主導でこの会議も持っているんで、日テレさんもそれで呼んでくるわけで、日テレさんが答えるか答えないかも、その辺の不審が、不審じゃないな、その辺の要望があるなら、日テレさんにも答えてもらうところは答えてもらうという、会としてを回るように進めてほしいんですよ、区が総合調整者なんだから。その辺をちょっと答えてください。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 委員のご指摘、ありがとうございます。確かに二番町計画の検討ステップという形で、検討ステップを以前出させていただいておりますけど、今現状として、与件整理、日本テレビに基本計画の策定に向けて要望事項を整理したというような状況で、こういった事項を守って検討してくださいということを伝えたという状況でございます、これから基本計画をつくっていくという形でございます。その中で、おっしゃるように、今回のシンポジウムについては、これまで当然我々が整理した心配事の解消事項について、どのように今回基本計画の中で対応したか、あるいは対応できなかったらどういう形で対応できなかったなどを、しっかりと丁寧に説明して、地域の理解を得られるようにしていくというのが、区としてシンポジウムを通じて基本計画を説明する場をセットする立場としてやっていくべきことかなと思っておりますので、基本計画が

出たらもうそれで何も言えないということではなくて、そういった形で、今まで頂いた意見をちゃんとどのように反映して、あるいはどのように反映できなかったかということも含めて説明をしながら、対話していくということかなと思っています。ありがとうございます。

○小林委員 まさにそうなんで、そこはそのように進めてほしい。

ただ、今までのこういう再開発とか、建て替えというか、こういうものというのは、造るほうが強いんですよ。当たり前なんだけど、造るほうが、再開発。なぜかという計画を立ててやらないと、採算性もあるし。住民のほうは別に造るほうの採算性は考えていないんですよ。住環境とか地域を守るということを考えるから、どうしてもぶつかるところがあるんです。そこをどう調整するかというのが総合調整者である千代田区なんです。それがどっちに寄っているかで見られちゃうと、それは企業寄りじゃねえかみたく言われちゃうと、会議もうまく進まないんで、先ほどご答弁にありましたように、できるものできないものがあります。これはあるんです。できないものでもやってほしいものもあるんです。そういうのをどう調整するかなんです。

要するに、できないものはやらないんじゃないんですよ。できないものもあります。それも理解してもらわなくちゃいけないんです。だけれども、住民としてはどこまで、どこまでこれ、ある意味では聞いてくれるのというところを詰めなくちゃいけないんですよ。それが区の役割。じゃないと、話し合っただけで、ここはできません、できません、はいやりましょうといったら、もう初めから計画は変わらないということになるんで、そこがさっき言った、ある意味話し合いのコアな部分なんで、その辺も心配なきように運営してほしいということなんです。

○加島まちづくり担当部長 今回の日本テレビさんの事業というのは、今までというか、普通の市街地再開発事業、各デベロッパーさんがやっている事業とはちょっと違うだろうなど。

○小林委員 違うよね。

○加島まちづくり担当部長 どこ、分科会でしたかね。事前事後だとかのそんなお話もあって、なぜやるんだということでは言われたときに、建物を整備して終わって、いなくなっちゃうから、何にも、その後で何もできないよねと、指摘があっても何も対応できないよねと。そういったことのないようにということで、そういった再開発は考えていますけど、それとはもう全然違って、日本テレビさんの事業ということで、ここは日本テレビさんが責任を持って整備するその後の維持管理、また、エリマネの活動の拠点もつくってもらうということなので、様々な、建物が建った後にも様々な日テレさんと会話する機会が十分あるんだろうなというふうに思っています。そこがまるっきり、一般的なというんですかね、それとちょっと違うので、ちょっとそういったところはやっぱり意識していただきたいなというふうに思っております。

基本計画の話に関しましても、先ほど課長が答弁したとおりですけれども、重々そこら辺も我々も思っていますし、日テレさんも思っています。いきなり出して、これで終わりだよと。このまま行くからとか、そういうのではなく、いろいろと意見の、できるもの、できないものがあるとは思いますが、できるものに関しては、今度は基本設計に反映させ、実施設計に反映させるということなので、そういった段階を踏んでやっていくとい

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和8年3月16日環境まちづくり委員会（未定稿）

うことなので、ここはしっかりこの先をちゃんと見ていただくのが一番重要かなというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

○小林委員 そうなんです。それはいいんですけど、いいんですけども、ちょっと気になるのが一つあるのね。建った後はやっていきません。建つところを今言っているんですよ。建つところが問題なの、今。そっちをちゃんとやってくれないと、建った後は、先ほど役所も事前事後の、再開発の事前事後の評価というのをしてくれるというんで、それ以上にやっぱり今度の日テレというのは事前事後がすごく大切な部分になるし、住民側、地域住民が分裂しないようにするには、もうまさにその部分なんで。だけれども、そこはそこでもちろんやるんだけど、建った後じゃなくて建てるところを今言っているのね。その建てるところで、どこまで要するに日テレも聞いてくれるのか。住民もどこまで安心してくれるのか。住民がどこまで、要するに住民も納得してくれるのか。これ、納得と説得の世界なんですよ。納得してもらって説得するんじゃなくて、説得して納得させるんじゃなくて、納得してもらって、その部分で進んでいくという部分なんで、その辺はやっぱり、もうそういう気持ちで言っていると思うんですけど、よろしいんですよ。

○加島まちづくり担当部長 建った後だけではなく、今も我々はそうやっているつもりなので、それはちょっと省いてしまいましたけど、（発言する者あり）そういったところで、そういった視点を大事にして進めていく必要があるというふうに思っております。

○桜井委員長 はい。

岩田委員。

○岩田委員 まさに建てた後も対話という、そこなんですよ、本当に。建ったらもうこっちのものみたいなふうになってしまうような懸念があるというか、建てしまったら、その後、何を言っても変わらないわけですからね。まさかそれ、壊せというわけにはいかないですから。だから、その建てる前なんですよ、やっぱり問題は、で、責任を持ってと言っても、建てしまったらどうやって責任を持つのかというような気はするんですよ。

あと、住空間の悪化のところ、配慮するというようなお話がありました。でも、たき火はするというふうにおっしゃってましたよね。（発言する者あり）だから、そういうのもあって、ちょっとすごい不安なんですよ。（発言する者あり）

あと、今この段階で基本計画は出ていなくて、説明会をやったとしてもまた同じような内容になっちゃうよというふうなお話だったんですけども、でも、それでもいいと思うんですよ。今出ていなかった人も、より多くの人が出てきて意見を言ってくれるとか、日テレの話もちゃんとそのときに答えてくれるという、そういう場があればいいと思うので、それはぜひやっていただきたいと思っています。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 基本計画前でのシンポジウムの実施については、先ほど答弁させていただいているとおり、これ以上なかなか具体的な説明は、対応はできないと思っておりますので、基本計画ができた段階で実施していきたいと考えてございます。

○桜井委員長 はい。今、基本計画についての話というのはずっと長い時間をかけてやってきています。それでも、こういうことの心配事がある、こういうことの心配事があるという、そういうお話を繰り返していらっしゃるんですけど、基本計画についてはこういうスタンスでやるんですということについては、先ほどの小林委員の質疑から始まって、ず

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和8年3月16日環境まちづくり委員会（未定稿）

っとそういう答弁もそういうふうにきちっと頂いていますので、それ以外の質問だったらお受けします。

○岩田委員 すみません。

○桜井委員長 そういうことです。そういうことですけど、まだありますか。

○岩田委員 はい。

○桜井委員長 ありますか。岩田委員。

○岩田委員 すみません。課長の、ちゃんと答えていただきたいのが、今のままだったら同じような内容の説明会になっちゃうというところで、同じような内容でも、より多くの方を集めて、今回というか、今までも出てこれなかった方、2回目でも3回目でも、初めてこういうのを聞きましたという方がいるわけじゃないですか。だったら、多くの方に来てもらえるように、同じ内容でもいいじゃないですか。それで、多くの方の意見を聞いて、今回は日本テレビさんも、前回のように黙っているだけじゃなくて、日本テレビさんにも答えてもらうという、そういう会にすればいいじゃないですか。それだったらできますよね。

○加島まちづくり担当部長 2回か3回なのかと、いろいろ先ほど言われましたけれども、3回目のほうがかなり多くの方にご参加いただいたと。かなり今まで来られていなかった方も参加されたということなので、我々としてはそこら辺は十分かなというふうに思っています。

で、その参加、会議の最中ではないですけど、結構言われたことが、模型があり、地域の模型が今回あったんですけども、その中に、日テレさんの計画が出てくるものだとばかり思っていたというのが結構な方に言われました。もう基本計画、私が2回目のシンポジウムの際に、次は日本テレビさんの基本計画をやはりお示ししないと、話がなかなか進まないというか、協議できないよね、ですということでお話したことあったのかと思うんですけども、そういった形で、やはり早く日本テレビさんの、これ、言い方が悪いかもしれないですけど、賛成とか反対とかそういうことじゃなくて、計画を見るのをやっぱり早くしてほしいというのがかなりありました。1名だけではなくて、かなり数名あったので、我々としてはやっぱりそういったことを見せしながら進めていくべきだろうという判断ですので、ここの、大変申し訳ないんですけども、陳情で要望されている基本計画の前に云々ということは、ちょっと区としてはやるつもりはございませんので、次回のシンポジウムの際に基本計画をお示しするという形が必要かなと思っております。

○桜井委員長 まだ続きますか。

○岩田委員 はい。

○桜井委員長 じゃあ、最後にしてくれますか。岩田委員。

○岩田委員 都計審の決議のところ、関係者の納得を得られるよう真摯な努力をし、慎重に進めること。で、こういう、何だ、陳情が出たということは、やはりもうちょっと慎重に進めていただきたいなという、そういう声だと思うんですね。なので、そこは同じ内容でも構わないので、またやっていただきたいと思っています。

○加島まちづくり担当部長 先ほどご答弁したとおり、次回のシンポジウムでは基本計画の提出が必要だというふうな区のほうの認識でございます。

○桜井委員長 はい。以上で。

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和8年3月16日環境まちづくり委員会（未定稿）

○小林委員 確認。

○桜井委員長 えっ、今の件。

○小林委員 今の……

○桜井委員長 今の件。小林委員。

○小林委員 ちょっと僕は聞いていなかったかもしれない。確認したいんだけど、その次回というのはいつやるの。いつ予定している。

○桜井委員長 次回というのは第4回のシンポジウムということですか。

○小林委員 そう。シンポジウムはいつ予定していて、どんなことを考えているのか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 次回の予定でございますけど、こちら、今、日本テレビが基本計画を策定中なので、それが終わる時期がまだいつということを我々もまだ聞いておりませんので、それに合わせて実施するという形で、次回の内容でございますけど、基本計画を説明して、また併せて環境影響調査を説明しつつ、これまでの心配事と区民への意見への対応状況がどうかといったことを説明いただくという形で考えてございます。

○小林委員 ここのステップ、二番町計画の検討ステップの中では、結構非常に幅広なんだよね、言っていることが。与件整理をしながら基本計画を立てる。その基本計画の中は6か月以上。ここの今の、それで言うとどの辺りにいるの、ここの6か月以上のどの辺りにいるかというのを。それじゃないとさ、やっているから、やっているからといったって、分からないよね。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 このステップの中で、与件整理という形で12月に区長から日本テレビに要望した後、基本計画を検討開始しているという状況で、今、そこを進んでいるという形ですので、12月に要望して、それから……

○小林委員 3か月たったね。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 3か月たっているというような状況で、なので、まだ基本計画途中段階、策定まで途中段階というふうに認識してございます。

この基本計画、6か月以上と書いてございますけど、これは我々がつくるものではなくて日本テレビさんがつくるものですので、ちょっとどれくらいかかるかというのは、ちょっと幅がある可能性はあるということで、6か月以上という記載をしております。

○桜井委員長 まあ、細かな点までは分からないということだよ。

○小林委員 分からなくていいからね。いや、分からなくていい。でも、やっているんでしょ。終わらない計画なんかないんだよ。

○桜井委員長 それはそう。

○小林委員 だから、計画はいつをめぐりに終わりますかとか言ってくれないと、今、終わりますかじゃない、いつをめぐりに計画を策定していますとか言わないと、6か月以上ととなっているから、じゃあ、どんどん期待しちゃうよ。もっともっと聞いて、1年計画を立てるのか。じゃないでしょ。計画というのは終わるんです。どこかで計画を終わらせなかったら事業は進まないじゃないですか。それがどういうめどですかと。何日にしろ……

○加島まちづくり担当部長 先ほど担当課長が申し上げたように、基本計画、これは日テレビさんがつくるものなんで、いつということは我々区からは申し上げられないといったような状況です。でも、私も前に説明したかもしれませんが、なるべく早めにやはり公表していく必要が、そのほうがいいだろうということなので、年度はまたいでしまいますけ

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30、33、36、

送付8-5陳情審査部分抜粋：令和8年3月16日環境まちづくり委員会（未定稿）

れども、年度をまたいで、なるべく早くシンポジウムは開催する必要があるかなというふうに思っています。ただ、シンポジウムの開催というのは、場所だとか、また広報だとか、バスだとか……

○小林委員 しっかりやってね。うん。しっかりやって。

○加島まちづくり担当部長 出張所だとか、そういったところがありますので、そういったことをちゃんとしっかりやって開催にこぎ着けなきゃいけないので、今、何月とかということはいえないんですけども、なるべく早くやる必要があるというような認識でございます。

○桜井委員長 はい。最後、小林委員。

○小林委員 最後。いいんです、そのところは。それを、だからといって、すぐやりますよと言われても困る。だけど、やっぱりそのところは、先ほどの答弁に非常に納得しているんで、基本計画が出ようが、出ようが、調整はフィックスされていませんと。これについては調整しますというところで、そう言われるから、調整するのは早いほうがいいかなと思っているぐらいで、そうすると、めどがあったほうがいいかなというロジックです、僕が言っているのは。そしたら、それに合わせて、どういうやっぱり地域の環境も話し合いも進むでしょうし、先ほどから、区がこれを主でやっているけれども、いろいろな意見があるなら、民間の方だって意見を調整する、調整じゃなくて話し合っただけ必要もあると思うんですね。これ、全部、やる、やらない、やる、やらないと言っていたら、やりませんと言ったらできなくなっちゃう。意見はそこしかまとまりませんなんてことない。ないんで、やっぱり民間の方にもご協力、地域の方にもいろいろな意見を出してもらおうような協力しながら、やっぱり日テレさんとも、要するに公の会議だけで全部決まっていけば、これはこんなにいいことはないんだけど、そうじゃない部分もあるでしょうから、その辺も含めて僕は日程感を聞きたかったんで、その辺は日程感、急げと、一刻も早くやれなんて言っていないよ。ちゃんと調整をしながらやってほしいんで、そのめども持って、分かたらすぐ教えてくださいねという話ですので、よろしくお願いします。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 また日本テレビとも調整しながら、シンポジウムの時期についてまた明らかになってきましたら、またご報告させていただこうと思います。

○桜井委員長 はい。以上で執行機関への質疑を終了したいと思います。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。委員の皆さんから、扱いについてのことも含めて、本件12件の陳情の取扱いも含めてご意見はございましょうか。

〔「継続」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 継続。継続。継続でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、本件12件の陳情につきましては継続とし、二番町地区まちづくり関連の陳情審査及び報告事項（2）を終了いたします。